

## 東京都写真美術館「マジック・ランタン」見学会報告

作成： 桑山 哲郎 (3Dフォーラムプロジェクト世話役) E-mail: [tkuwa@ga.catv-yokohama.ne.jp](mailto:tkuwa@ga.catv-yokohama.ne.jp)

2018年9月6日(木)東京都写真美術館で開催されている「マジック・ランタン 光と影の映像史」を見学しました。参加者10名に映像作家 中島 興 氏(映像作家)とゲスト1名を加え、東京都写真美術館学芸員の遠藤みゆき様による解説で、大変充実した内容の見学会とすることができました。遠藤様を始め、東京都写真美術館の関係者に感謝いたします。なお見学会に先立ち、8月24日(金)には『江戸写し絵』社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵の夕べ」が開催されました。複数の会員が参加したこのイベントの紹介をまず行い、続いて見学会を報告します。また展示物・東京都写真美術館の所蔵品の図版は主要なものがプレスリリース[文献 1]などで公開されているので、この報告では重複していない図を掲載します。

### ■『江戸写し絵』公演：

・開催日時：2018年8月24日(金)19:00-20:00

東京都写真美術館2階ロビーに、和紙で作られた背面映写スクリーンと映写スペースが設置されました。江戸写し絵社中による「だるま夜話」ほかの公演、「風呂」と呼ばれる日本独自の幻灯機の紹介、種板の仕掛けと映写技法についての実演がありました。なかでも、風呂を手にした解説者が観客席後方の壁面に像を映写し、プロジェクションマッピング風の体験ができたのは貴重でした。定員50名に対して約80名の観客が集まり、立ち見も出る盛況でした。以下、当日撮影した写真で公演の様子を報告します。



図3 風呂の説明・実演と遠藤みゆき学芸員



図1 設置されたスクリーン・映写スペース



図4 壁面に映し出された像



図2 「だるま夜話」の一場面



図5 東京都写真美術館の外観



図6 A4サイズのパンフレット

■「マジック・ランタン」見学会

・開催日時：2018年9月6日 15:00-16:30

美術館地下1階に集合し、遠藤みゆき学芸員から今回の展示の概要説明を受けた後に入場、順番に展示物を見学しました。大変詳しい解説だったので、一部だけご紹介します。



図7 地下1階 展示会場入り口



図8 マジック・ランタンの映写(レプリカ)

1.マジック・ランタンの誕生：

アタナシウス・キルヒャー『光と影の大きいなる術』(1671年)が展示されていました。マジック・ランタンの光学系が記載されている最も古い出版物で、キルヒャーがこれまで発明者とされていたのが、近年の研究ではオランダのクリスティアン・ホイヘンスが発明者であることが解明されたとの説明がありました。また18世紀末に登場したファンタスマゴリアのショーで用いられたランタン「ファンタスコープ」とスライドが数多く展示されていました。

珍しいものとして、通常の表面からの照明では特別な図柄は見えないのに、背後から照明を当てると図柄が現れてくる「リトファニー」の展示がありました。背後からの照明を点滅させて、動作の様子を体験することができました。

2.マジック・ランタンの流行：

興行に用いるランタン以外に、家庭で家族が楽しむランタンとスライドが展示されていました。

3.日本のマジック・ランタン：

マジック・ランタンの日本への伝来は2回に分けられます。江戸時代の伝来では、各地でいろいろな形に発展し、江戸(関東)では「写し絵」、上方(関西)では「錦影絵」という名前前で定着しました。特に「江戸写し絵」では桐を素材として一人の人が振り回すことができる「風呂」を複数用いた演出に発展し、人気を集めました。明治期の種板と幻燈下絵が多数展示されていました。

明治に入り、手島精一氏(1851年-1918年)が近代的なスライドプロジェクターを持ち帰り、科学教育の分野での利用普及に努めました。[注：手島氏は、東京工業大学の前身、東京職工学校、東京工業学校、東京高等工業学校の校長を歴任し、また早稲田大学理工科の創設にも貢献した人物です。]

4.スライド：

ファンタスマゴリアのスライドと、パノラマスライドが展示され、また動作の様子がプロジェクターで映写されていました。

5.マジック・ランタン以後：

1895年、リュミエール兄弟により映画発明が完成されると、マジック・ランタンは急速に映アに置き換えられていきます。大変珍しい変換器の映写機械の展示と、リュミエール兄弟によ

る映画、さらにメリエス（作品内容としてマジック・ランタンの後継者にあたる）の作品が壁面に映写されていました。

6.現代作品展示：

映像作家、小金沢建人氏による作品の上演が行われていました。中島興氏によると、映写画面の中に閉じ込められているのではなく、目前の空間のあちこちに現れる、江戸の写し絵の表現を受け継いだ作品とのことでした。

今回の見学にあたりお世話いただいた遠藤みゆき様をはじめ、東京都写真美術館の皆様感謝いたします。

(以上)



図9 見学の様子1(写真提供:東京都写真美術館)



図10 見学の様子2(写真提供:東京都写真美術館)

■付記事項：

マジック・ランタンに関しては Wikipedia を始め、web 上に多くの情報があります。以下は、目についた参考資料です。報告時点でアクセスを確認してありますが、リンク切れはご容赦ください。

■参考文献 / 日本語サイト

1) 東京都写真美術館：「マジック・ランタン 光と影の映像史\_0619.pdf」

(2018年6月19日8ページのプレスリリース)

[https://topmuseum.jp/upload/2/3177/%E3%83%9E%E3%82%B8%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%B%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%B3%20%20%E5%85%89%E3%81%A8%E5%BD%B1%E3%81%AE%E6%98%A0%E5%83%8F%E5%8F%B2\\_0619.pdf](https://topmuseum.jp/upload/2/3177/%E3%83%9E%E3%82%B8%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%B%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%B3%20%20%E5%85%89%E3%81%A8%E5%BD%B1%E3%81%AE%E6%98%A0%E5%83%8F%E5%8F%B2_0619.pdf)

2) 東京都写真美術館：展示物リスト

[https://topmuseum.jp/upload/3/3083/top\\_MagicLantern\\_list-8p\\_0803-3.pdf](https://topmuseum.jp/upload/3/3083/top_MagicLantern_list-8p_0803-3.pdf)

3) 遠藤みゆき：「中島待乳と幻燈」、東京都写真美術館 紀要, No.15, p 71-91

[https://topmuseum.jp/contents/images/info/journal/kiyou\\_15/09.pdf](https://topmuseum.jp/contents/images/info/journal/kiyou_15/09.pdf)

4) 遠藤みゆき：上記のカラー図版

[https://topmuseum.jp/contents/images/info/journal/kiyou\\_15/03.pdf](https://topmuseum.jp/contents/images/info/journal/kiyou_15/03.pdf)

5) 草原真知子 先生による写し絵関係のサイト

[http://www.f.waseda.jp/kusahara/Utsushi-e\\_j/TOP.html](http://www.f.waseda.jp/kusahara/Utsushi-e_j/TOP.html)

動画資料（多すぎるので一部だけ記載）

6) フィルム・ビフォー・フィルム（映画前史）

Film before film Filme antes do filme de Werner Nekes 1986 Completo e legendado em português（英語ナレーション 1時間55分）

<https://www.youtube.com/watch?v=AOf2c2pnI3E>

7) The great art of light and shadow Athanasius Kircher, the Jesuit who invented 'early cinema'

<https://www.youtube.com/watch?v=UERhBA3VfkA>

8) 江戸写し絵 公演 Japanese Magic Lantern Performance（1時間6分）

<https://www.youtube.com/watch?v=wCUBhhdU9w>

9) 他の「江戸写し絵」動画

<https://www.youtube.com/watch?v=mjMxtCFA94>

<https://www.youtube.com/watch?v=dfV7ws2z3Pg>